

職員教育 —OJT について考える

特集にあたって

作業療法の臨床教育は実技研修や勉強会、on the job training (OJT) を中心に行われている。OJT とは、実務を通して知識や技術を身につける人材育成の手法である。私が OJT を実施する立場になったときに、教育する側・教育を受ける側・環境（職場）の点から課題を感じた。

教育する側の課題は、教育の仕方を学んでいない人が多いことである。どのように教育したらよいか悩むことがあった。

一方、教育を受ける側の課題としては、学習・教育の到達レベルが不透明であることが挙げられる。学校で基礎知識は学んでいるが、臨床に必要な知識や技術は、実習地、卒後の勤務先等で大きく変わる。また、2020 年（令和 2 年）からのコロナ禍では十分な実習を経験できなかった方もいるだろう。加えて、仕事や勉学に対する熱も個人差がある。つまり、臨床教育では一から教育や意欲を継続・引き出していく必要がある。

環境（職場）の課題は、OJT にかかる時間の確保である。経営の根幹である単位取得との兼ね合いが重要となる。また、少人数や一人職場での臨床では OJT 自体が困難な場合もある。

本特集では、OJT の総論と分野やスタッフ数等、異なる環境や臨床の規模から“教育・OJT”での課題に対する取り組み等を寄稿していただく企画とした。教育で悩まれる読者の一助になれば幸いである。

（椿野 颯汰）

企画担当

椿野 颯汰（千里リハビリテーション病院、作業療法士）

中村 春基（千里リハビリテーション病院、副院長・作業療法士）

山本 伸一（山梨リハビリテーション病院・日本作業療法士協会、作業療法士）